

シンポジウム「中国特許を巡る翻訳の課題と対応」 - 2014年5月度 ATIS 例会（その1） -

5月度の例会で、シンポジウムを開催しました。「中国特許を巡る翻訳の課題と対応」というテーマで、熱心な討論が行なわれました。シンポジウムは年に1回開催されます。場所は大手町のJXホールディング講堂でした。

パネリストは4名、企業の立場、日本代理人の立場、中国代理人の立場から選出された方たちで、トヨタテクニカルディベロップメント(株)の森修俊氏、(株)アイピックの神谷正司氏、金順姫氏、北京銀龍知識産権代理有限公司の雙田飛鳥氏でした。

コーディネーターの田端泰広氏（ATIS顧問）の司会で討論が始まりました。

パネラーの自己紹介から始まり、誤訳の実例が数多く紹介されました。企業の立場の森さん、日本代理人の立場の神谷さんと金さん、中国代理人の立場の雙田さんが数多くの事例を具体的に紹介してくれました。パネリストの4人は、それぞれの立場で誤訳と闘ってきた方たちです。実に詳細な報告が行なわれました。

そして、その事例をパターン別に分類し、誤訳の原因を追究します。

最後に誤訳防止対策を議論しました。中国事務所の技術理解力の向上を行なう、問題事例の共有化を行なう、英語にしてから中国語に翻訳する、個人ではなく組織で対応する、クライアントとの交流を促進するなど、とても有益な情報をいただきました。費用の問題についてもどう考えるかヒントをいただきました。

会場からも質問があり、熱い議論が行なわれました。

出席者は90名を超えました。いつもの例会の1.5倍以上の参加人数でした。あっという間に2時間が経過しました。シンポジウム終了後の懇親会でも、熱心な討論が続いていました。

